

市民クラブ市政報告

発行：姫路市議会市民クラブ 姫路市安田四丁目1番地 ☎：079-221-2042 編集責任者：常盤 真功



お世話になります。皆様にご支援・ご支持頂き活動を進めております、『姫路市議会 市民クラブ』の仲間です。

今回は、『令和5年度決算概要』、『新市立高等学校の進捗』、そして9/4～10/7までの34日間で開会された『令和6年第3回姫路市議会定例会での個人質疑』についてご報告致します。

I. 『令和5年度決算概要』について

会計名	歳入決算額	歳出決算額	実質収支
一般会計	2,377億5,404万3千円	2,281億2,637万5千円	53億5,709万円 ※1
特別会計(7会計)	1,119億5,008万円	1,085億4,958万5千円	34億49万1千円 ※2
企業会計(収益的収支)	(収入)	(支出)	(当期純利益)
水道事業	124億7,160万9千円	98億552万1千円	26億6,608万8千円
都市開発整備事業	1億8,547万円	4,284万7千円	1億4,262万3千円
下水道事業	183億4,233万1千円	183億4,233万1千円	0円

【一般会計】

一般会計の歳入2,377億5,404万3千円、歳出2,281億2,637万5千円で、形式収支は96億2,766万8千円。ここから翌年度への繰越財源42億7,057万8千円を差し引いた実質収支(※1)は53億5,709万円となり、昭和43年度以来56年連続の黒字を確保

【特別会計】

7会計合計で、歳入が1,119億5,008万円、歳出が1,085億4,958万5千円で、形式収支は34億49万5千円、ここから翌年度への繰越財源4千円を差し引いた実質収支(※2)は34億49万1千円の黒字。会計別では、全ての会計で赤字決算はなし

【企業会計】

水道事業会計、都市開発整備事業会計が黒字、下水道事業会計は収支均衡

II. 『新市立高等学校の進捗』について

学校校名：「(仮称)姫路市立高等学校」 学科・コース：普通科・単位制 学級数：8～10学級/1学年
校舎：R8年4月に姫路高校の校地で開校。姫路高校と併設し、施設を共有。
旧中央卸売市場跡地に新校舎を建設、移転予定。

Ⅲ.『令和6年第3回姫路市議会定例会での個人質疑』について

阿山正人議員が質問しました

【個人質問：質問日 9/12】

第3回定例会では5項目について個人質問を行いました。
その中で以下、3項目5点についてご報告申し上げます。

●令和5年度決算について

Q: 56年連続黒字だが黒字になれば良いのではなく、市民ニーズに応え将来に亘り持続可能な財政状況であることが重要。それらを踏まえた総括と今後の財政運営の見通しは？

A: 経常収支比率が社会保障費の上昇等で過去最高となり硬直化が一層進んでいる。今後も人口減少の進行等で歳入の増加が期待できない中、こども医療費の無償化や手柄山スポーツ施設、新市立高校の整備等の大規模投資事業等で財政支出が必要なため、『DX』、『公共施設マネジメント』、『事業見直し』等の行財政改革を進め、持続可能な財政基盤の堅持に努め、いつまでも住み続けたいと思える活力溢れる姫路を創造していく。

●播磨臨海地域道路ルート計画案上にある公共施設への対応について

Q: 広畑地区計画図のルート上にあるテニスコート、野球場、グランドゴルフ場の移転等の今後の対応策は？

A: 今後の事業の進捗やスポーツ施設の影響等を見極めながら、スポーツ振興やスポーツ施設の在り方の検討を進め、最適な施設の再整備を目指して取り組んでいきたい。

Q: 今定例会で『播磨臨海地域道路等整備基金条例』として約45億円を積み立てる議案が上程されているが、現在でもテニスコートが不足しており、現段階から基金を活用し、早期整備していくべきではないか？

A: 本市がどれだけ整備負担するか明らかでない中で優先的に整備することは難しい。また整備する際は、その競技が発展するような整備をしたいと考えており、施設の集約化や複合化、交通アクセス等の利便性も考慮して関係部局と適時所要の作業を進めていきたい。

●広畑地区における新たな交通体系の検討について

Q: 交通網が整備されていると思われがちな南西部地域でも、高齢化率が高く独居老人が多い地域が増加しており、改めて実態調査を行い高齢者ニーズに合った交通体系を構築すべきではないか？

A: 南西部地域は鉄道とバスが東西を並走しているため、南北の移動手段等の課題は認識しており、神姫バスと定期的に議論している。一方で全国的な運転手不足により路線維持が困難な状況にもある。引き続き地域の意見を伺いながら移動ニーズの把握と高齢者の移動手段の確保について最適な交通体系を検討していきたい。

Q: 網干のツカザキ病院と三栄会広畑病院を運行しているシャトルバスを地域の移動手段として活用できないか？

A: 国が策定した『地域公共交通リ・デザイン・連携協働指針』で『地域の輸送資源の活用』という方針があり、介護医療施設や企業の送迎バスといった地域の輸送資源の有効活用について、国の動向を注視しながら検討していきたい。

『今後の財政運営』、『南西部の都市基盤整備』
について働く現役世代の代表として質す！



八木隆次郎議員が質問しました

【個人質問：質問日 9/17】

第3回定例会では5項目について個人質問を行いました。
その中で以下、3項目7点についてご報告申し上げます。

●姫路市の観光拠点整備について

Q: 市の観光拠点整備として旧ヤマトヤシキ跡地のローレルコート1階部への誘致状況は？

A: 当該マンション1階部分の分譲店舗を観光交流拠点として取得予定としている。ユニバーサルツーリズム機能を備え既存の観光案内所とも差別化を図った整備を目指している。令和6年度中には方針を決定し、市民の皆様へ詳細を公表出来るよう準備する。

Q: 姫路城入城料金の値上げについては、市民クラブとしても前向きに支持・評価をしているが維持管理に必要な内容や費用など実際の金額を示し説明責任を果たすべきでは？

A: 令和6年度までの10年間に要した費用は約145億円、今後の整備では往時の姿の復元やインバウンド・DX対応など新たな魅力の創出にも取り組む為、それ以上の額となる。

Q: 書写の里美術工芸館は建設時より社会教育施設として運営され、教育委員会所管であったが、現在は観光経済局の所管となり利用者数や公費負担率高いとの理由で、廃止ありきの検討がなされている。廃止に向けた取り組みは納得できるものではなく、大規模改修などリニューアルを図り本気でグレードアップに取り組む考えはないか？

A: 施設用地の3分の2近くが借地であることに加え、今後において入館者数が低迷している現状を打開できるリニューアルの実施等は困難と考える。観光施設への転用に加え廃止も視野に入れて検討する。

●災害対応と危機管理について

Q: 防災に対する市民意識の醸成を図るとともに、命のパスポートの周知など本格的に取り組むべきでは？

A: 命のパスポートは令和元年の作成時に市内全戸に配布したほか、広報ひめじ・市HPなどに掲載している。8月からは新たに市公式LINEに特設ページを設け、スマートフォンから命のパスポートを選択し、避難開始のタイミングや災害時の避難場所を登録可能とした他、ハザードマップの閲覧も出来る様にしている。

Q: 災害に備えた資機材（トイレの備蓄・トイレトレーラーなどの導入）の用意を本市として持つべきでは？

A: 携帯トイレは15万7600回分、段ボールトイレ1966セット、組立式仮設トイレ132基を備蓄している。提案のトイレトレーラーについては早期導入を進めると同時にバキュームカーとのセット派遣も調査・研究を進めていく。

●医療的ケア児支援法施行以降からの各種支援策が出来るのか。

Q: 医療的ケアがあり、自分で動ける重症心身障害児・者の夜間預かっていただける施設が無い為困窮している。早急に確保を。

A: 本年3月に策定した姫路市障害福祉推進計画において施設整備を進める旨を明記しており、事業所の確保に取り組む。

Q: ルネス花北での整形外科の診察が無くなり現在神戸方面・上郡方面へいかざるを得ない、しかも診察結果を保護者がルネスの職員に伝達しなければならない様になっており、新たな負担も生じている。早急な医師の確保を。

A: 代替りの医師確保に努めたが、確保は非常に困難であり、現在は県内他市の専門医がいる医療機関を紹介している。

姫路城入城料金の説明は市民にわかりやすく！
医療的ケア児支援法の順守を！

